

---

# -四方物語-

カペラッティ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

- 四方物語 -

### 【Nコード】

N1808R

### 【作者名】

カペラツティ

### 【あらすじ】

王が国を統べる王国の時代。

そんな世界を東西南北4つに分けた、それぞれの物語。

機械の西。

医療の南。

孤独の北。

果ての東。

物語残る基盤となるは、4つの国それぞれで起こった出来事。

それは世界の歴史に残る大きな物もあれば、片隅にしか置けない小さな物だったりもする。  
そんな悲しくも可笑しい悲喜劇を、是非ご覧下さい。

## ・4つの基盤；

昔、世界は王が国を統べる王国の時代と呼ばれた、栄光ある華やかな時代がありました。

大小含めて沢山の国がありましたが、その中でも飛び抜けて強大な勢力を持った国が、3つありました。

1つ目はライドハーツ。

世界の西部に位置し、西一帯の国々を支配する機械帝国。

2つ目はユーラル。

世界の南部に位置し、南一帯の国々を支配する医療大国。

3つ目はアラナル。

極寒の地である世界の北部に位置した、雪に囲まれた独立国。

世界の東部に国は無く、果てしなく青い海が広がっていました。

この物語は、世界を『東西南北』と4つに分けて、それぞれの国で起こったことを執筆したものです。

それは悲しかったり、楽しかったり、怖ろしかったり…

読む人それぞれ、思われ方が違うでしょう。

さあ、それではご覧下さい。

東西南北の四方で起こった、悲しくも可笑しい悲喜劇を…



・北物語・『フラン エト ルージュ』白と赤 (前書き)

? プロローグ

・北物語・『ブラン エト ルージュと白と赤』

北の歴史に大きく刻まれた名がある。

王国の時代と、この世界が呼ばれていた、およそ100年前のことだ。

アラナール国の王族親衛隊、通称白軍の隊長なる人物、『ツエード』が存在した。

16歳という歴代の隊長達に比べては、まだ随分と幼い彼。

しかしながらその剣の腕は、北国始まって以来の神童と呼ばれる程、強くそして美しかった。

彼がアラナール王家一族に仕えた経緯は不明だが、王家に逆らう者であれば誰であろうが始末する、狂った忠誠を捧げていたことは確かだ。

彼が一振り刀を奮えば、たちまち周囲は敵の血で赤く染まった。

血を被り、まるで狂ったように戦うことから、彼についての渾名は『北の狂戦鬼』。

彼は北暦1012年に起きた『北西大戦』で、最後まで国もとい王族を守り、現在も続く不朽のアラナール国の基盤となった人物でもある。

そんな彼を讃え、白軍の隊長を務める者には『ツエード』の名が与えられるようになった。

北の歴史にはこうかかっている。

『王族親衛隊白軍初代隊長、シレン・ラ・ツエード』と…

さて、これからお話するは世界の歴史にも、ましてや北の歴史にも記されていない、初代『ツエード』の物語である。

孤児だった彼と、そんな彼を取り巻く人物達による、まだ誰も知らない物語。

何も知らなかった白い少年は、感情を知り友情を知り、そして愛情を知った。

『四方物語』 最初のお話、 『北物語』 始まり始まり…

## ？・白、狩る

ポタポタ…

一面雪で覆われた真っ白な地面は、赤い反転模様で飾られていく。ここは北部。

極寒の地。

そんな寒い中でも、赤は止まる事をしらず絶えず流れている。元は防寒の為に身につけたコートも、今は傷口から赤が染み込み、ただの錘になっていた。

物陰に身を隠し、気配を出来るだけ消して相手の動きを待つ。

その姿は、まるで獲物を探す鷲のよう。

鋭く光る銀灰の瞳をよく凝らしている。

………

静寂が当たりを支配し、唯一の音は風が雪を浚うものだけ。

そんな中、遠くで動く複数の影が見えた。

今や廃墟と化した、古城の瓦礫の隙間。

それを見つけた瞬間、地を蹴った。

軽やかな動きで落ち広がる瓦礫を避け、最小限の地を蹴る音で相手方に近づく。

段々と縮む距離にその口元は緩み、軽く弧を描いていた。

古城の窓ガラスに差し掛かった時、素早く腰元の鞘から刀を抜く。

ガッシャーんツ！！！！

「ギャツ！」

「ゲア…ッ！」

窓を割って古城内に闖入した瞬間に、複数いた者の内の2人を斬り殺す。

2人共々己の悲鳴を上げ、赤を吹き出しながら絶命した。

突然の闖入者に驚きつつ、武器を構える者達。

「貴様何も…?!？」

叫びながら最初に斬りかかってきた者の首をはねる。その勢い余り、首は弧を描き、残りの者達の足元まで転がっていった。

人間首をはねられても数秒間だけ意識があり、という話を聞いたことがある。

今まさに起こっていることがそれだ。

首を無くした身体は、微弱に痙攣した後…

プツリと、糸が切れた操り人形のごとく派手に倒れ込んだ。

拍子に切断面から熱い赤が吹き出、雪を染めながら溶かしていく。雪に溶けたことで体積が増した赤は、首と同じく残り者達の足元まで行き届き、まるで高価なカーペットの上に立っているような光景だ。

「ヒ、ヒイイツ!？」

多量の赤が放つ鉄の臭いに、顔をしかめる者達。

中には、転がってきた仲間だった者の首に怯え、声を上げる者もいる。

今をもって3つ目の死体となった首無し死体の先には、白いコートを真っ赤に染めた1人の兵士がいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1808r/>

---

-四方物語-

2011年10月8日19時29分発行